

2020年4月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、前回の「新型コロナウイルス感染症の拡大の影響などにより、下押し圧力の強い状態にある」との判断を維持しました。
- 需要項目ごとの判断も、前回、個人消費と観光について下方修正しましたが、今月は変更はありません。
- 雇用面や、金融機関の貸出の面についても、前回と同じ判断です。労働需給は引き締まっており、金融面でも、預金、貸出とも前年より増加しています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、3月、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けた来客数の落ち込みから、衣料品、白物家電等の販売が減少した一方、引き続きマスク等の衛生用品に特需がみられたほか、外出自粛に伴い、日用品や食料品に需要増がみられたことから、ほぼ前年並みとなりました。4月入り後は、緊急事態宣言の対象が全国に拡大されたことを受け、外出自粛の動きがさらに強まる中で、来客数の減少や買い控えが続いているとの声が聞かれています。
- 3月の新車登録台数は、軽自動車、除く軽、合計とも前年を下回りました。合計は昨年10月以降、6か月連続でマイナスですが、マイナス幅は縮まってきています。もっとも、自動車ディーラーからは、店頭では来客数が大きく落ち込んでいる状況に変わりはないとの声が聞かれており、今後の販売動向への影響が懸念されるところです。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、3月は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、全ての空港で前年を大きく下回り、全体でも2か月連続で前年を下回りました。この間、旭川空港の国際線の就航便数は、3月、定期便、国際チャーター便ともにゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、3月、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による国内外からのキャンセル等から、前年比大幅な減少となりました。旭川地区のホテル客室稼働率も、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、昨年がふっこう割で押し上げられていた反動もあり、前年を大きく下回りました。
- 各地観光施設の入込みは、3月、ウエイトの大きい旭山動物園をはじめ、層雲峡地区、ウトロ温泉、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリーがともに前年を大きく下回ったことから、合計でも前年を大きく下回りました。
- 4月入り後は、政府が緊急事態宣言の対象を全国に拡大したことを受け、ホテル・旅館の宿泊や観光施設の入込み等において、さらなる減少がみられています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、3月、宗谷で前年を上回りましたが、上川、オホーツクで前年を下回り、全体でも前年を下回りました。一方、19年度全体（19/4～20/3月の累計）では、宗谷が前年度を上回りましたが、上川、オホーツクが前年度を下回ったことから、全体でも前年度を幾分下回りました。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、2月、貸家、分譲が前年を上回ったものの、持家が前年を下回ったこと等から、全体では前年を下回りました。

■住宅以外の建築物

- 建築物着工床面積（非居住用）は、2月、上川で前年を上回ったほか、オホーツクでほぼ前年並みとなったものの、宗谷で前年を大きく下回ったため、全体でも前年を下回りました。

■雇用

- 雇用状況は、引き続きタイトな状況が続いています。有効求人倍率は、2月、旭川、網走で前年を下回ったものの高めの水準を維持しているほか、北見が前年を上回り、稚内も前年並みとなりました。新規求人数は、2月、北見、網走は前年を上回ったものの、ウエイトの大きい旭川が前年を下回り、稚内が前年並みとなったことから、4つの職業安定所を合計した新規求人数でも前年を幾分下回りました。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、3月は前年を幾分上回りました。3月まで13か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 今後、道北地域の経済を見ていく上でのポイントとしては、①観光、消費に関し、政府の緊急事態宣言が全国に拡大され、外出自粛の動きがさらに強まる中で、新型コロナウイルス感染症が及ぼす負の影響を、特に

注意して見て参りたいと思います。また、②公共工事について、道北地域での公共工事請負金額の伸びが北海道全体より見劣りしつつある点も見据え、人手不足の問題を抱える当地の建設業者が受注を続けられるかどうか、③前年度の反動等から慎重な滑り出しとなった2020年度の設備投資計画が今後、どのように推移していくか、といった面にも注意を払いたいと思います。

以 上